

新美南吉と詩

Nankichi × Step

南吉の詩は童話に勝るとも劣らず魅力的。
地元を中心に活躍する現代の若手作家たちと詩をコラボレーションしていきます。



からす

からすホイホイ

何処へ行く

お山は高かる

飛び越えろ

お山の向こうにや何がある

芒がユラユラ

ゆれてるか

ねむの木ネンネン

ねているか

落花生があつたなら

とつて来い

一服やって

忘れるな

からすホイホイ

飛んで行け

大蔵 和華子 イラストレーター

水彩やインクで風景や想像の世界などを、
感じたままに絵にしています。

<http://wakakookura.jimdo.com/>

絵について

通り行く友に向かって、つぶやいて
いるような歌っているような、南吉
の姿が浮かびました。
その空間を色で表現してみました。

新美南吉



にいみなんきち
(1913-1943)

大正2年7月30日、愛知県知多郡半田町(現・半田市)に生まれる。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。旧制半田中学校卒業後、「赤い鳥」入選を契機に北原白秋や巽聖歌の知遇を得る。昭和18年、結核のため29才で世を去る。

解説

南吉は、深い悲しみを内に秘めた作家であったが、同時になかなかユーモアのあるシャレた精神の持ち主でもあった。からすに「からすホイホイ／何処へ行く」といかにも親しげに呼びかける。そして「お山は高かる／飛び越えろ／お山の向うにや何がある」と問いかける。ユラユラゆれてる芒、ネンネンねているねむの木、といったシャレた言葉の響きに誘われて、何と「落花生があつたら／とつて来い」と突飛なことをいうのだ。そして言われたことを「一服やって／忘れる

な」とまったくおかしくまとめ、「からすホイホイ／飛んで行け」と突っぱねて終わる。初期の作品の中に多様な文学的特色がすでに現れていることがわかる。

前新美南吉記念館館長

矢口 栄 さん

解説者

半田市、知多市、東浦町の小中学校勤務を経て'04年から'11年まで新美南吉記念館館長を務める。著書「南吉の詩が語る世界」(一粒社出版部)「子どもたちに贈りたい詩」(教育出版センター)「新しい詩の創作指導」(共著・明治図書)ほか。

おしらせ

半田商工会議所創立120周年記念
新美南吉生誕100年記念
第4回半田ふるさと検定(新美南吉編)

【申込締切】8/9(金)

【試験日時】8/25(日) 午前10時開始

【試験会場】半田商工会議所・クラシティ半田

【受験料】1,000円 学生は800円

【内容】選択式 合計50問(60分)1問2点の
100点満点 得点70点以上で合格

【申込・問合せ】半田商工会議所

半田ふるさと検定係0569-21-0311